

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：21601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01084

研究課題名（和文）高齢化コミュニティにおける介護キンドレッドの地域性—八丈島と北信地方の比較研究—

研究課題名（英文）Variation of Activities to Care and Support In Aging Community: A comparative study of Hachijo Island and Northern Nagano Prefecture

研究代表者

立柳 聡 (TACHIYANAGI, Satoshi)

福島県立医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：40315669

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）： 高齢化コミュニティでは、介護など高齢者の生活支援は、介護キンドレッドによって、多分に支えられている。但し、その実態や形成原理は地域的な違いがみられ、それは伝統的な社会組織の地域類型の違いとよく整合するとみられた。この検証に向けて、地域類型が異なる八丈島と北信地方の長野市での調査を行い、それらを比較する研究に取り組んだ。

この結果、八丈島の末吉地区ではインキョ制家族の伝統が今も色濃く、要介護の老親も、できるだけインキョ屋で過ごし、デイサービスを利用するなど、自立した生活を営もうとする傾向が顕著であった。一方、長野市の小田切地区では、家族内で介護に取り組むことを基本としていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、第一に、今なお影響力を有する足元の社会の仕組みや文化の伝統を今日的に巧みに活用する内発的な発想に立った介護施策を構想する点にある。日本の福祉施策は、その研究を含め、とかく先進的な他国（他文化）の施策を導入しようとする傾向が強いが、介護も生活の一部であり、そのあり方も文化である。家族のあり方や地域社会のあり方も文化である。そもそも他文化の下での施策を安易に日本に持ち込む発想に矛盾がある。

第二は、「介護キンドレッド」という概念の提起と、それが地域性を持つものであることや、その本質は、日本の伝統的な社会組織の地域類型に根差していることを実証しようとする研究である点にある。

研究成果の概要（英文）： In aging community generally, caring kindred play a role of caring and life support for aged people. However, variation of activities to care and support in each region can be observed on reality and formation principle. And these regional characteristics would correspond to each local type of the social organization traditionally. To test this hypothesis, I have taken on the comparative study in Hachijo Island and northern Nagano prefecture where are different in local type of the social organization traditionally.

In Hachijo Island, the tradition of Inkyosei that is double household family remains strongly, so that aged parents as care receiver trend to live an independent life based on their own responsibility. For example, they spend in Inkyoya as much as possible, where is another building to be separate from the main building and use any day care facility positively. On the other hand, in northern Nagano prefecture, people join forces to care and support as a family essentially.

研究分野：社会人類学、日本民俗学

キーワード：高齢化コミュニティ 介護キンドレッド 社会組織の地域類型 インキョ制度 同類 近隣互助 嫁出した娘・姉妹

## 1. 研究開始当初の背景

公共人類学の台頭で、公共の関心が高い社会問題に、人類学の理論や方法を活用した貢献が一段と検討される時代を迎えている。人口減少・過疎・高齢化が進む日本では、介護という課題を看過できない。本研究は、そうした学術的背景を踏まえ、今後の日本の介護のあり方を見据え、特に在宅で過ごす要介護者を念頭に、この人々を概ね伝統的にはムラであった字や大字、地区などと呼ばれる現状の地域社会を基盤に支援する有効な施策を、人類学や民俗学の知見を活かし、探求すると共に、政策・施策への反映を図ろうとするものである。

応募者は、長らく山間奥地や離島の畑作農村であるムラでフィールドワークに従事してきたが、人口減少や過疎・高齢化が著しく、コミュニティの維持が難しくなりつつあるムラであることで共通している。これを「高齢化コミュニティ」と概念化しておきたい。生活条件が厳しい高齢化コミュニティでの民俗調査や世帯調査を重ねるうち次第に見えてきたのは、介護など高齢者の生活支援は大変と思われるが、一人暮らしの高齢者に話を聞いても、「昔からの仲間や親戚がいて、寂しくもない。ここを離れる気はない。」といった答えが間々返ってくる。災害、病気、事故、買い物など、不安や不便を実感することがあるはずであり、そうした場合の対処や助け合いの慣行や制度についての聞き書きが増えていった。その結果、捉えられてきたことは、高齢化コミュニティにおける介護など高齢者の生活支援は、当該の高齢者が属する家族だけで完結しておらず、今も同じムラの中にいる本分家や近隣のムラに嫁や婿に行ったキョウダイや娘、息子などの親族を主体に、さらにこれに準じて講、組、班などの近隣互助組織の仲間のうち特に懇意な者などからの支援や互助によって、多分に支えられている事実であった。但し、どのような親族なのか、複数の親族がいるのに、なぜ特定の親族と助け合うのかをめぐっては、明らかに調査対象となったムラごとに違いが見えた。

親族の組織化のうち、自己中心的なものは、一般に「キンドレッド」と呼ばれ、その選定は、葬式、結婚式など、何らかの機会によって、恣意的であることが一つの特色である。すると、介護を機会に形成されるキンドレッド(「介護キンドレッド」と概念化する)が存在し、特に高齢化コミュニティでは重要な機能を果たしている。ここに気づくと共に、ムラごとの違いを精査してみると、そのムラが位置づく全国的な地域区分における伝統的な社会組織の地域類型とよく似ているとみられることもわかった。これにより、各地の介護キンドレッドの実態と地域性を明らかにすると共に、背景の解明に向けて、伝統的な社会組織の地域類型との整合性を検討する研究の意義を見出した。

[大林 1996]では、日本の伝統的な社会類型と地域区分は ~ の五つが示されている。後掲の[立柳 2018]で、の地域区分に属する福島県と山梨県のムラの比較研究を行ったことを踏まえ、本研究では と に属するムラの比較を試み、仮説の普遍性を検証したい。なお、 に属するムラを長野市から、 に属するムラを八丈島から選定する理由は、コロナウイルス問題で、見知らぬ人たちの接触が全国的に危惧される状況にあり、新規に調査地を開拓することが困難なためである。従前の研究で十分な信頼関係がある調査地で研究に当たることとした。

大林太良、「社会組織の地域類型」、ヨーゼフ・クライナー編、『地域性からみた日本』、新曜社、pp.13-37、1996

立柳聡、福島県立医科大学 平成 29 年度 研究支援事業(育成研究)研究成果報告  
「高齢化コミュニティの暮らしの変化と介護戦略」、福島県立医科大学、2018

## 2. 研究の目的

すでに日本は、2008 年頃から人口減少の時代に入っているが、ここを待つまでもなく、多くの畑作農村は、人口減少・過疎化・高齢化が進み、次第に、行政サービスの展開や自治に様々な弊害が生じる状況が深刻化してきていた。その代表的なものの一つが高齢者の介護問題への対応である。日本全体の高齢化率は、28.1%(2018 年 10 月 1 日現在)となっており、2036 年には、33.3%にまで上昇すると予測されている。誰がどのように高齢者を介護するか、問題が深刻化していくことは疑えない。しかし、国も自治体も財政的な余裕はなく、介護の充実に向けた対応をめぐって、行政サービスの拡大に期待を寄せることは危うい。自助努力が近隣や親族、優れて懇意な有志による支援や互助による対応が拡大し、ここを行政の公助や NPO 団体などの協力を得て展開する共助が支えていくことになる。[立柳・吉川 2021]

すると、介護キンドレッドの存在を明らかにし、それを給付等の対象とする新たな単位と位置づける施策の実現は、それぞれの地域の文化や社会の伝統を活かした介護施策の展開に寄与するものと考え。政策・施策提言により、行政や政治に働きかけ、実現を目指したい。

そのうえで、学術的には以下の独自性や創造性を有すると考える。第一は、本研究は、今なお影響力を有する足元の社会の仕組みや文化の伝統を今日的に巧みに活用する内発的な発想に立った研究であり、施策の創造であること。日本の福祉施策は、その研究を含め、とかく先進的な他国(他文化)の施策を導入しようとする傾向が強いと思われるが、介護も生活の一部であり、そのあり方も文化である。家族のあり方や地域社会のあり方も文化である。他文化の下での施策を安易に日本に持ち込む発想に矛盾がある。本研究は逆の発想に立つ。

第二は、「介護キンドレッド」という概念の提起と、それが地域性を持つものであることや、その本質は、日本の伝統的な社会組織の地域類型に根差していることを実証しようとする研究の一環であることである。

立柳聡・吉川美華、「本書の視座 日本と韓国のコミュニティで「公益」はどのように担保されてきたか」、松本誠一編、『共助の伝統と創造 日韓コミュニティ比較の視座』、岩田書院、2021

### 3. 研究の方法

以下の計画と方法に基づいて研究を推進した。なお、2021年度はコロナウイルス感染症の影響が思っていた以上に残り、感染を警戒する人々の意向もあって、特に長野市小田切地区での調査の開始に遅れが出た。この結果、報告書のまとめがずれ込み、2024年6月現在、概ね原稿が完成といったところまで来ている。8月に完成、9月に関係方面への配布開始を予定している。

[令和3年度の計画]

4月：助成が決定次第、研究代表者と八丈町、八丈町社会福祉協議会の担当者で会合し、本研究に最も適していると思われる地区とその中の部落（過去の八丈町での調査の経験から30戸程度と想定）の選定を行い、地区と部落の代表者への接触を開始する。また、資料・情報の提供など協力体制や研究日程の細部を協議する。

5～6月：当該地区と部落の代表者たちに正式に調査への協力を依頼する。

7～8月：当該の部落の各戸に挨拶と研究の趣旨説明、協力のお願いに伺う。

9～3月：当該の部落での民俗調査と世帯調査（全戸の7割程度を想定）、介護慣行や介護上の困難をめぐるインタビュー調査に取り組む。

3月：八丈町の担当者、八丈町社会福祉協議会の担当に、一年間の調査成果の概要を報告すると共に、次年度の調査の有効な取り組みに向けて意見交換を行う。

[令和4年度の計画]

4月：研究代表者と長野市、長野市社会福祉協議会の担当者で会合し、資料・情報の提供など協力体制や研究日程の細部を協議する。本研究に最も適していると思われる長野市小田切地区とその中の字（これまでの調査の経験から最大20戸程度と想定）の選定を行い、地区と字の代表者への接触を開始する。

5～6月：当該地区と部落の代表者たちに正式に調査への協力を依頼する。

7～8月：当該の部落の各戸に挨拶と研究の趣旨説明、協力のお願いに伺う。

7～9月：八丈町での補充調査、並びに、八丈町の介護施策に関する詳細な資料収集と担当者へのインタビュー調査。

10～12月：長野市小田切地区の当該の字での民俗調査と世帯調査（全戸の3割程度を想定）、介護慣行や介護上の困難をめぐるインタビュー調査に取り組む。

1～2月：八丈町での調査データの集約、それを踏まえた社会構造、介護慣行と介護施策との整合性をめぐって考察。

3月：八丈町の担当者、八丈町社会福祉協議会の担当に、一年間の調査成果の概要を報告すると共に、次年度の調査の有効な取り組みに向けて意見交換を行う。

[令和5年度の計画]

4月：長野市の担当者、長野市社会福祉協議会の担当に、一年間の調査成果の概要を報告すると共に、今年度の調査の有効な取り組みに向けて意見交換を行う。

5～6月：長野市の介護施策に関する詳細な資料収集と担当者へのインタビュー調査。

7～9月：長野市小田切地区の当該の字での民俗調査と世帯調査（全戸の3～4割程度を想定）、介護慣行や介護上の困難をめぐるインタビュー調査に取り組む。

10月：長野市での調査データの集約、それを踏まえた社会構造、介護慣行と介護施策との整合性をめぐって考察。

11～1月：八丈町と長野市のデータの比較、仮説の検証を進めつつ研究報告書を執筆する。

2月：研究報告書を刊行する。

3月：研究報告書を踏まえて3年間の研究総括を行なう。八丈町とインフォーマントに感謝の挨拶に回り、謹呈する。

### 4. 研究成果

#### A 伝統的な社会類型 に属する長野市小田切地区での調査において得られた成果

伝統的な社会類型 の特色として、同族や年齢集団のような確固たる永続的な組織がほとんど欠如しており、一方で二者間的な擬制的親族関係である親方子方関係を設定し、地域社会における自己の地位を確実にして、かつこれを村落組織の代わりとしたり、それを補足することが指摘されている。長野市の小田切地区は、上宮野尾区と下宮野尾区から構成され、研究代表者は、前者に入り、フィールドワークを行なった。上宮野尾区は麻庭と三組の二つの字から構成されるが、特に、麻庭地区では、S姓とI姓がほとんどで、あたかも二つの姓それぞれに大きな同族が形成されているいるかのごとき印象を受けるが、特にI姓は、大きく二つの派に分かれ、墓も互いに離れたところでまとまりを作っている。しかし、それぞれの派の中でも系譜の本末関係に関する認識は不明確さが残り、いずれが本家でいずれが分家かはっきりしない例もある。分家の数も少なく、せいぜい一つの本家に一つの分家といった具合で、いくつかの本分家によって構成さ

れる同族という集団的な結びつきや交際はみられず、本分家二者間の概ね対等な互助協同を基本とする交際が、伝統的に維持されてきたとみられる。年齢集団も上宮野尾区全域で確認されず、概ね伝統的な社会類型の特色と整合しているとみられる。なお、さらに補充調査による確認が必要とみられるが、親分子分関係もみられ、伝統的には、婚姻に際して親分が仲人親となるのが普通であったとみられる。

注目されるのは、「ウチワ」、「外ウチワ」と称する親族関係であって、前者は、実態的にみると当該戸の歴代の世帯主の配偶者の実家と子どもの婚家であり、本質は姻戚関係の家とみられる。一方、後者は、分家の世帯主の配偶者の実家など、祖先中心的に系譜がたどられる家の姻戚が本質とみられる。ウチワの関係は、特に葬儀と婚礼、病気見舞いにおいて中心的に機能し、ここに外ウチワの家も加わる形で準備や運営が進められてきた。自動車の利用が普及する以前は、病人の搬送もウチワの重要な役割であり、ここに字の若い者が助けに加わり、戸板に乗せて病院まで運んだと伝わる。自動車が普及し、救急車の利用が当たり前となり、葬儀社も利用できる現在は、その機能は概ね収穫物の分け合いなど、日常的な生活互助と葬儀における互助に収斂されているが、介護においても、生活支援に一定の役割を果たしている。

上宮野尾区では、介護は伝統的に家族内で取り組むことが基本であり、特に妻と嫁が中心的に役割を担っていたとみられるが、嫁出した娘が区内や地区内、さらには長野市内のケースも確認されたが、徒歩や車ですぐによつてこられるところにいると、特に実親の介護の手伝いに加わる傾向が今日的にも見受けられる。加えて、要介護者を抱えた家のウチワの家が、介護者の介護には直接かかわらないが、様々な場面でその家に対する生活支援を行ってきた様子が伺え、これも次第に廃れつつ今日まで引き継がれている。

結局、上宮野尾区において伝統的に行われてきた介護の基本は、家族による在宅介護であるが、それを支える上で、伝統的に大切にされてきたウチワ、外ウチワの親族関係とそれによる互助協同が今日的にも活かされていることが判明した。

## B 伝統的な社会類型 に属する八丈島末吉での調査において得られた成果

八丈島の末吉地区では、インキョ制家族の伝統が今も色濃く、要介護の老親も、できるだけインキョ屋で過ごし、デイサービスを利用したり、夜だけは母屋に泊まるなど、他の家族員にできるだけ頼らない自立した生活を営もうとする傾向が顕著であった。また、インキョ屋には、折々に嫁出した娘が訪問し、老親の身の周りの世話をする傾向や、介護度が上がると、施設が選択される傾向も確認された。

一方、八丈島では、末吉に隣接する中之郷地区や島の中央部に位置する大賀郷地区を中心に、伝統的に「朝回り」、「昼回り」と呼ばれるお茶会が連日行われてきた。野菜栽培や花卉園芸のためのハウスや大きな家などを有する人が、そこを集う場として提供し、近隣の懇意な仲間たちが概ね決まった時間になるとやってきて、早朝や昼前を中心に1~2時間、茶飲みをしながら様々な話題をめぐって情報や意見の交換をしつつ、親睦を深める機会となっている。顔を見せない仲間がいると安否確認になる。個人の健康や各戸の暮らしぶりも理解され、助け合いの切っ掛けともなってきた。近隣互助や地域社会の自治を支える重要な習わしであることが理解される。壮年以上の男性の参加が多いと言われるが、女性の参加者もいる。末吉では、人柄的に人々を惹きつける人の家に数人から10人くらいが集っていたとみられ、家を提供する人が亡くなったり、病気になったりすると自然消滅していた。こうした伝統的なやり方は、現状、見られなくなっているが、地区内唯一のパブが閉店して、人々が気軽に集う場がなくなったことから、福祉職でもある自治会長が自分の別宅を開放し、夕方ともなると、気が置けない仲間たちが夜な夜な酒や食べ物を持参して数人位集い、よもやま話に花を咲かせていることがわかった。研究代表者もいつしかその仲間のような状態となり、この場の参与観察を続けることとなったが、その実態は正に八丈島の伝統的な「朝回り」、「昼回り」の伝統そのものと理解された。末吉では、一人暮らしの高齢者や高齢夫婦のみの世帯が目立つが、孤独感を耳にすることはまずない。実子の存在以上に、こうした近隣の仲間関係や互助が大きな支えとなっているからであろう。

結局、末吉地区において伝統的に行われてきた介護の基本は、要介護者本人の自助を基本に、それを施設や家族が部分的に、そして、介護が重篤となれば、施設が全面的に支える施設介護に移行するものであった。(但し、要介護者の実子やその嫁を中心に、まめに施設に顔を出している。)また、伝統的に大切にされてきた近隣の懇意な仲間たちによる連日の茶飲み慣行が、高齢者や要介護者にとって地域社会における精神的なセーフティネットとして機能し、こうした介護の在り方を支えていることがわかった。

## C 総括: AとBの比較において得られた成果

高齢化コミュニティでは、介護など高齢者の生活支援は、妻と嫁を主体とする家族員に第一義的な役割があるが、加えて嫁出した娘や姻戚戸など、介護キンドレッドによって支えられてきている。この傾向は、在宅介護に重きがある伝統的な社会類型 に属する長野市小田切地区において、一段と顕著である。一方、伝統的な社会類型 に属する八丈島末吉では、インキョ制の根強い伝統により、要介護者の自助努力と施設介護が重視され、介護キンドレッド以上に、伝統的な仲間関係(この中に、要介護者のキンドレッドが含まれる場合もある。)が日常的なセーフティネットとして機能しており、注目された。

このように、二つの調査対象地域の介護の在り方は、妻と嫁、嫁出した娘が活躍する共通点もあるが、その全般的な実態は大きく異なっている。いずれも伝統的な社会組織の地域類型の特色とされる族制慣行や地域社会を構成する近隣戸間の互助関係や仲間関係の伝統を土台とするものとみられた。本研究の主題とした仮説は、概ね検証されたものと考えられる。

#### D 今後の研究と社会貢献の展望

長野市上宮野尾区においても、八丈島末吉地区においても、複数の市・町議会議員やその経験者がおられ、調査の過程で協議できる関係が構築されたことは重大で、これを活かし、介護をめぐる新たな施策の構想や議会と行政への提案を、本研究の成果を踏まえ、共同してまとめていきたい。

長野市上宮野尾区は、在宅介護の伝統を強く保持する地域であり、空き家も増えていることから、その再活用の意味も含め、区内に、保健師の巡回による健康相談を中心に、食事の提供や入浴介助などを除いたたまり場的なデイサービス拠点を増やしていくことなど、提案していきたい。一方、八丈島では、末吉地区ですで行われている自治会長の別宅での取り組みをモデルに、末吉地区に限らず、茶飲みの慣行を活かした集合拠点を増やす取り組みを提案していきたい。

一方、研究をめぐっては、特に西日本の地域でも同様な仮説の検証が可能であるのか、引き続きそのための新たな研究プロジェクトを組織して検証に取り組んでいきたい。

#### 5. 主な発表論文等

これまでのところございません。科研費申請に際してお伝えしているように、本研究では、研究報告書をまとめるところまでを目標としており、現在、少し予定より遅れが生じておりますが、報告書がほぼ完成域となり、関係方面への贈呈の準備を進める段階に至っております。

学会発表や論文の作成は、これを終えてからの対応となります。2024 年度秋以降に、順次、所属学会やその学会などで発表して参る予定です。

#### 6. 研究組織 氏名

(ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究代表者	立柳 聡 (TACHIYANAGI Satoshi) (40315669)	福島県立医科大学・総合科学 教育研究センター・准教授 (21601)

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

これまでのところございませんが、2024 年度秋以降に韓国の研究者との取り組みを計画中でございます。

#### 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

これまでのところございませんが、2024 年度秋以降に韓国の研究者との取り組みを計画中でございます。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------